

令和4年3月17日

令和3年度 学校関係者評価報告書

学校法人 山口学園
長崎公務員専門学校
学校関係者評価委員会

令和3年度 学校関係者評価について、下記のとおり、評価結果を報告します。

記

I. 学校関係者評価委員

- ① 関連業界等関係者(公務員)
- ② 関連業界関係者(公務員)
- ③ 卒業生
- ④ 卒業生
- ⑤ 教育に関し知見を有する者
- ⑥ 教育に関し知見を有する者
- ⑦ その他校長が必要と認める者
- ⑧ その他校長が必要と認める者

II. 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回学校関係者評価委員会 令和4年2月18日(書面決議)
第2回学校関係者評価委員会 令和4年3月16日(書面決議)

III. 学校関係者評価委員会報告

別紙:【学校関係者評価報告書】のとおり

以上

学校関係者評価報告書

(令和3年度 学校評価)

令和4年3月

学校法人 山口学園
長崎公務員専門学校

別紙 関係者委員会の評価、意見及び提案

評価1 「自己評価」結果に対する評価

大区分	意見及び提案
1. 【教育理念・目的・育成人材像】	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ上に、理念・育成人材像等が見当たらない。 ※ホームページトップ→情報公開→教育情報の公表→学校の目的・概要(http://n-nics.com/education/)に掲載しております。 ・ (1-2) 学生及び保護者へのアンケートは回収(回答)率を上げたうえで評価を行うべき。未回答者の評価が悪い傾向に出る可能性が高いと考えられるため、改善をお願いしたい。なお、評価の変更は不要。
2. 【学校運営】	意見なし。
3. 【教育活動】	<ul style="list-style-type: none"> ・ (3-1) に、教育目標とあるが、育成人材像に変える、又は、教育目標を明記する。 ・ (3-3) 一般教養については、試験の点数で学生の理解度を評価できるが、面接についてはどのように評価しているのか。二次試験の合格率が低いのは、面接が評価しづらいことが原因なのではないか。 ・ (3-1) SPIへの素早い対応は評価できる。 ・ (3-5) 教職員の希望する研修は何かが問われる。「研究」関係か、「修養」関係か。 ・ (3-4) 今年度から、授業評価アンケートをGoogleFormで実施したことで、学生、職員双方の負担軽減に繋がると思われる。また、アンケートにおける学生の満足度も高く、授業改善への取り組みは評価できる。 ・ (3-5) 研修会で得た情報を共有すると同時に、教育活動に活かされることを期待する。 ・ (3-5) 今年度も新たな企画はできなかったものの、新型コロナウイルス感染症対策として、Web方式のリモートによる研修会への参加が実施され、資質の向上に努めた点は大きく評価できる。今後も感染状況に応じて、実施できる方法を考えながら取り組んでほしい。評価としてはBで妥当であり、来年度は、有益な資質向上のための企画を立案し、Aの評価となるよう頑張してほしい。
4. 【学修成果】	<ul style="list-style-type: none"> ・ (4-2) 昼間部突破率90%は高すぎる。もっと実現可能な目標設定(75~80%)にしてはどうか。特に、二次試験は面接主体であり、自分の考え、面接官からの問いに対して、明確、明瞭に、自信を持って発言する等の訓練が必要。 ・ (4-2) 突破率に影響するのは、二次面接の結果だけなのか。一次合格者に対しては、企業や施設と提携して、実地研究の機会を与えてはどうか。 ・ (4-3) 退学者の数が経営上問題がないのであれば、この数値目標のために、教員に負担をかけるべきではない。教員には、多くの学生のために、教材研究の時間を十分に確保するべきである。 ・ コロナ禍で学生が思い通りの学習が困難だったのではないかと心配している。 ・ 評価項目の中で、最も重要と考える学修成果3項目のうち、2項目が昨年度を下回っていることは残念である。(4-2)については、メンター制度やグループワークの効果的な運用を期待する。 ・ 比較できるよう、過去3~5年のデータが見たい。 ・ (4-2) について、設定した目標からするとBの評価は妥当と考える。一次試験は高い合格率を堅持しており、判断理由に記載の通り、突破出来なかった要因を分析することが重要。困難な点は多いと思うが、メンター制度よりも面接などの二次以降の対策を強化するための材料を収集して分析し、これまでの取り組みを総合的に再評価して、次に繋がる対策を早急に検討してほしい。 ・ (4-3) について、目標値に届かなかったものの、各担任は個別相談や指導など十分努力している。取り組みも含めて評価し、Aでもよいのではないかと感じた。 ・ (4-3) 入学前から学生が抱える問題を、入学後の短期間で解決することは難しいと思われる。入学前に学校の理念・目的を理解させ、入学後は実行できるよう、サポートをしてほしい。なお、評価の変更は不要。

5. 【学生支援】	・経済的な支援や現場での支援も、そろそろ実態として出てくるのではないかとと思われる。
	・各評価項目におけるアンケート結果は素晴らしい。SPI対策や新規の官公庁ガイダンスなどは効果が期待できる。
6. 【教育環境】	・(6-1) インターネット環境の整備が出来ていない家庭の学生には、どのような支援をしているのか。 ・「GIGAスクール構想」※1は専門学校にも関与しているのか。
	・どの項目も満足できるものとなっているが、安全点検チェックリストを見ると、3号館5Fの内装・階段等の補修が滞っている。
7. 【学生募集】	・(7-2) リモート授業への成果が確認されているのであれば、オンライン受講など、経営拡大の可能性はあるのでは。
	・満足できる結果である。高等学校及び大学における情報提供については、コロナ禍で難しい面もあると思うが、方法を工夫しながら継続していただきたい。
8. 【財務】	・昨年に引き続き、予算と決算の乖離が大きすぎる。原因が明確なので、次年度に反映していただきたい。
	・(8-2) 学校の運営上、学生等から求められた結果として、学生数の増になったものであり、5月の補正も行われている。よって、評価はC→Bとしても良いと考える。
	・(8-2) 常に健全な経営に努めており、学校の努力は大いに評価できる。しかしながら、予算と収支計画については、立案が補正ありきとなっており、近年の実績等を十分に勘案しながら作成しないと決算との乖離は是正されず、いつまでも評価が上がらないと感じた。
9. 【法令等の遵守】	意見なし。
10. 【社会貢献・地域貢献】	・コロナ禍の状況では、学生も動きにくいところがあったと思います。「ながさき若者会議」※2などZoomでの勉強会などもあるため、多様な方々と緩く繋がることもいいのではないと思う。
	・3つの評価項目のうち、1項目が昨年より下がったが、コロナ禍の影響で致し方ない結果であると思われる。今後も、社会貢献、地域貢献に期待する。
	・コロナ対策をとって、集まらなくても、学生だからできるボランティアが何かありそうな気がする。
	・(10-2) について、新型コロナウイルス感染症の終息が見込まれない中、ボランティア活動への参加を評価の指標にしていると、評価は上がらない。時代に応じた変化が必要。例えば、コロナ禍の中、頑張っている医療従事者の方にメッセージやエールを送るなどの取り組みを行うなど、視点を変えて検討してみてもどうか。

※1 GIGAスクール構想とは・・・ 2019年2月に文部科学省より打ち出された、「児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想」のこと。ネットワーク整備および端末の整備の補助金対象は、小・中・特支・高等学校。

※2 ながさき若者会議とは・・・ 2020年より始動した、長崎の若者が集い、新しい仲間を作りながら自分たちが暮らす未来を面白くするためのアクション（はじめの一步）を起こしていく会議体のこと。具体的には、月に1回、メンバーが参加する全体会議を開き、そこでテーマを決めて話し合ったり、ゲストの方のお話を聞いたり、新しいアイデアを出し合ったりしている。

評価2 「本年度の総合的な評価結果」に対する評価

	<ul style="list-style-type: none"> 理由にあるように、全体としては、十分に評価できる。しかし、最重要課題と考える、【4.学修成果】の結果を見ると、”B:概ね達成”が妥当であると判断する。
	<ul style="list-style-type: none"> 前年度よりも少し下がったが、評価Aの項目が多く、理事長をはじめ、教員の努力が着実に実を結んでいる。評価項目の設定などは、改善の余地があると思うが、今年度の評価については、”B:概ね達成”で妥当と考える。

評価3 「今後取り組むべき課題（改善策）」に対する評価

(1) 学生に関する事項について	<ul style="list-style-type: none"> 昼間部突破率90%は無理な目標であり、具体的な取り組みをしても、到達は無理と思われる。むしろ、令和3年度の実績を見て、70~75%に設定し、チャレンジしてみようか。 (4-2)にも記したが、マニュアル化した面接の練習よりも、社会を実体験させることが、面接時に学生が自らの総合的人間力をアピールするのに役立つのではないか。 (4-3)は、学校経営上問題がなければ、やる気のない学生は辞めたほうがいい。専修学校の目的は1条校※3とは違う。必死の覚悟のない学生に対して、エネルギーを使いすぎるのは、各担任の負担が大きく、効率的ではない。 突破率の低下は、面接試験の結果に起因すると考える。対策として、外部からの面接官(卒業生、保護者含む)を招聘して、実践的な練習を取り入れてみようか。 (4-1)、(4-2)は非常に高い目標かと思うが、達成に向けて努力されることを期待する。
(2) 教職員に関する事項について	<ul style="list-style-type: none"> 一般教養の知識は備わっていると思う。しかし、面接試験に対応するための仕組み、人材、スキル向上が必要ではないか。 かえって、Zoomなどでの多くの学びが、仕事には一見直結しないように見えるものでも、社会的資源として価値があるようにも考える。異なる考え方の中にも、どんどん参加し、組織や公務員の枠組みを外すことも求められると思う。

評価4 学校運営の改善に関する提言

	<ul style="list-style-type: none"> 目標管理の手法は仕方ないとしても、数値目標にだけ拘るべきではない。教職員が、良い気分で仕事ができる環境作りこそが大事。 今、社会は、人新世や地球規模で考えることなど、コロナや貧困の課題解決に揺れている。そこを広い視野と長い視座で、公務員は枠を外していく実践力が求められていると思う。多様性と一口にいても、概念や理念で終わらない、現実の確かな学びをできる方の人材育成が必要だと考える。時代を見る、若い方が育つことを願っている。 避難訓練が火災と地震で2回行われていて、とても良いと思った。建物が古いので、トイレだけ新しくなるともっと快適な学校だと思う。 36項目の目標達成に向け、職員一丸となり、真摯に取り組まれている。しかし、学修成果については、昨年と比較し、低下していることは残念であると同時に、専門学校としての最重要課題であると考え。SPI対策や低学力層への支援、メンター制度の充実など、改善を図り、次年度に活かしていただきたい。特に面接指導については、外部の力を有効に活用し、緊張感のある場面を設定してほしい。 特に、前年度のA以外の項目等について、改善策を考え、対応していただいている。新型コロナウイルス感染症対策も万全を期しており、適切な対策が講じられている。今後も、学校の発展と未来ある学生のため、様々な工夫を講じながら、一丸となって学修成果の発展などに取り組んでほしい。 新型コロナウイルス感染症の影響で、学生の教育環境が大きく変わっていると思うが、他校も同じ課題なので、教職員でアイデアを出しあい、今後活用できることを検討してほしい。例えば、教材のデジタル化、学生間のコミュニケーションや情報交換の活発化、採点自動化、面接時に備えた発声練習(アナウンサーを講師に呼ぶ)等
--	--

※3 1条校とは・・・
1条校(いちじょうこう)とは、学校教育法(昭和22年法律第26号)の第1条に掲げられている教育施設の種類およびその教育施設の通称。幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学(短期大学および大学院を含む)および高等専門学校。